

登録コード	EKD08900	開講年度	2026			
授業科目	高度実践研究とリフレクションⅢ（特別支援教育高度化P）				担当教員	上村 恵津子 他
英文授業名	Advanced Educational Practical Research and Reflection Ⅲ: Special Needs Education (Program)				副担当	奥村 真衣子・戸谷 健史・下山 真衣・宮地 弘一郎・楠見 友輔
単位数	1	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年
講義室			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				⇔	【授業の達成目標】
	24EAカリ					
	教育の専門職としての学識・技能				⇔	①教育現場における課題に関連する文献や情報を収集し、実践と関連づけて検討することができるとともに、実践校・実践クラスの実践について評価することができるようになる。
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				⇔	②1年次の高度実践研究とリフレクションⅠ・Ⅱの成果から、教育現場が直面する課題を省察的に検討することができるようになる。
	子どもの多様なニーズへの対応力				⇔	③特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより、子どもの多様なニーズに対応することができるようになる。
	協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力				⇔	④学校内外の支援者との連携に基づき、子どもの多様なニーズに対応することができるようになる。
	26EAカリ, 25EAカリ, 24EAカリ					
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				⇔	26・25EAカリ ①1年次の高度実践研究とリフレクションⅠ・Ⅱの成果から、教育現場が直面する課題を省察的に検討するとともに、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより、子どもの多様なニーズに対応することができるようになる。②学校内外の支援者との連携に基づき、子どもの多様なニーズに対応することができるようになる。③特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより、教育現場における課題を省察的にとらえることができるようになる。実践結果や振り返りに基づき、課題探究の方向性や内容を検討することができる。
	24EAカリ					24EAカリ ⑤特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより、教育現場における課題を省察的にとらえることができるようになる。実践結果や振り返りに基づき、課題探究の方向性や内容を検討することができる。
	社会の一員である教員として生きる意志と倫理観				⇔	⑥教育現場が直面する課題を省察的に検討することができるようになる。
(2)授業の概要	本授業では、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。 担当教員が、特別支援学校の実務経験を活かして演習を行います。					
(3)授業計画	第1回：課題の追究(1)－実践の記録・分析－ 第2回：課題の追究(2)－実践の評価－ 第3回：課題の追究(3)－長期目標・短期目標の見直し－ 第4回：課題の追究(4)－文献等に基づく実践の振り返り－ 第5回：課題の追究(5)－実践クラス・実践校関係者からの聞き取りに基づく振り返り－ 第6回：課題の追究(6)－家庭もしくは関係機関からの聞き取りに基づく振り返り－ 第7回：課題の追究(7)－後期の課題追究に向けて（中間報告会へ向けて）－ 中間報告資料Ⅲ					
(4)成績評価の方法	成績評価の考え方は以下の通りである。 26・25EAカリ ・授業の達成目標①～③への取組みの経過を確認する省察ポートフォリオの作成状況:50% ・授業の達成目標①～③の到達度を確認する中間報告資料Ⅲ:50% 24EAカリ ・授業の達成目標①～⑥への取組みの経過を確認する省察ポートフォリオの作成状況:50% ・授業の達成目標①～⑥の到達度を確認する中間報告資料Ⅲ:50%					
(5)履修上の注意	内容により、授業日や開催場所を変更することがある。					
(6)質問,相談への対応および連絡先	上村: kamietu@shinshu-u.ac.jp (4243) 奥村: maio@shinshu-u.ac.jp (4206) 戸谷: toya_kenji@shinshu-u.ac.jp (026-241-1177) 宮地: miyaji@shinshu-u.ac.jp (4201) 下山: mshimoyama@shinshu-u.ac.jp (4205) 楠見: kusumi@shinshu-u.ac.jp (4202)					
(7)成績評価の基準	「卓越している」：実践校・実践クラスの実態を把握・分析するとともに、授業やカンファレンスの成果と実習の往還に基づいて省察を深め、課題探究の方向性や内容を検討している。 「かなり上である」：実践校・実践クラスの変化に伴う実態を把握するとともに、授業の成果、カンファレンスの成果、実習ポートフォリオに関連させながら省察し、課題探究の方向性や内容を検討している。 「やや上にある」：実践校・実践クラスの変化に伴う実態を把握するとともに、授業の成果、若し					

(7)成績評価の基準	くはカンファレンスの成果，若しくは実習ポートフォリオや文献に基づき課題を検討している。 「水準にある」：何らかの省察を行い，課題を検討している。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可
(8)事前事後学習の内容について	・授業にあたっては，各授業における学習内容が，自らが追究する課題とどのように関連するかをまとめておくこと。 ・課題に関連する文献や情報を収集しておくこと。 ・この授業は45時間の学習を必要とする内容です。従って，30時間以上の時間外学習が必要となります。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。